

農機の改造に チャレンジ

アグリかわさき
2022年2月22日

伝えたいこと

1. 自動運転の可能性
2. ローカル戦略

令和3年3月11日

XAG社R150指宿実演会

問題あり！

畠幅に合わない

改造チーム結成

オクラ農家	2名
農機具店	1名
アグリかわさき	1名

令和3年7月 車両改造



令和3年7月 車両改造

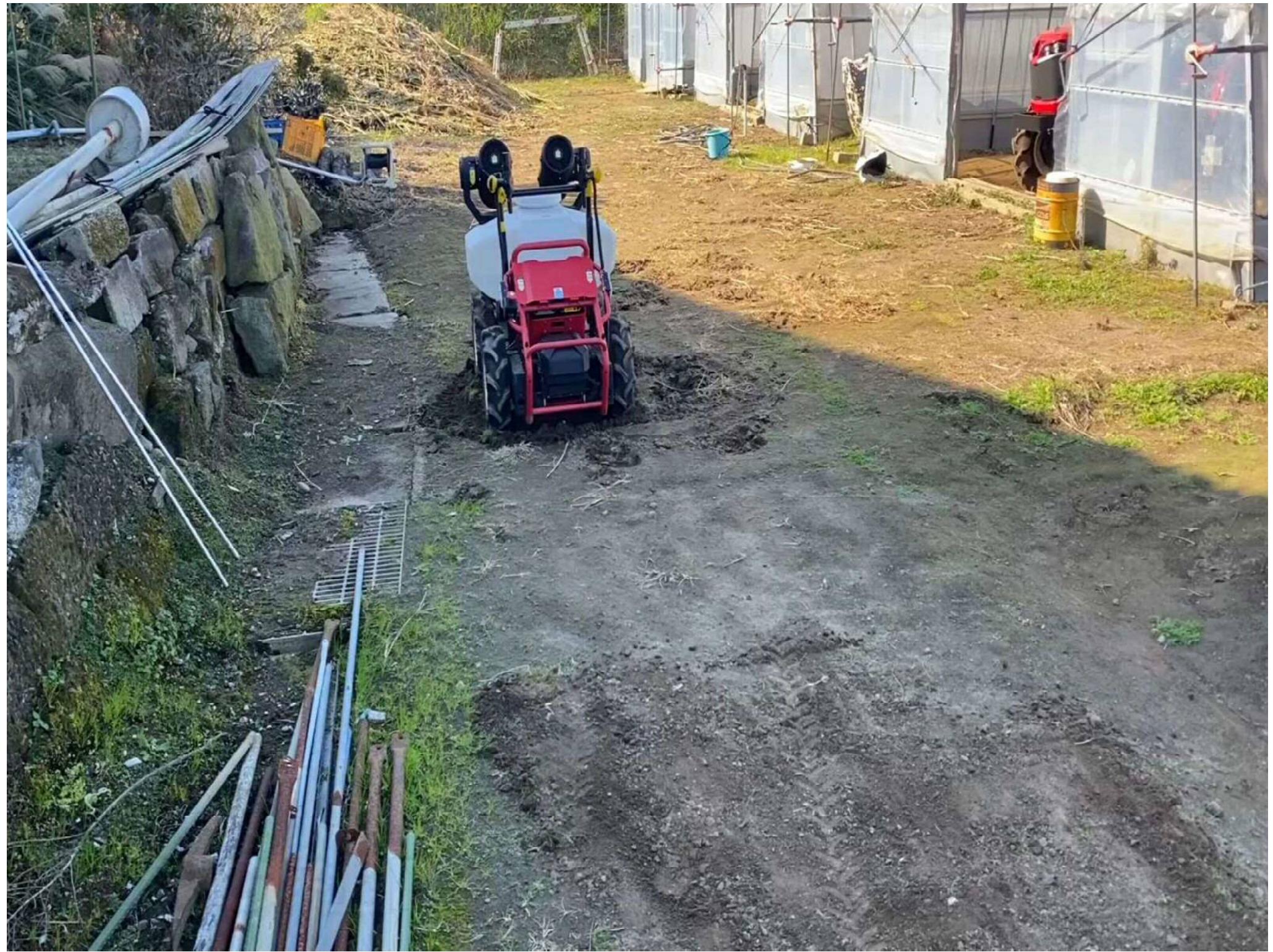


車幅109→71cm



令和3年12月

改造車両完成



R150の牽引装置

メガソーラーの草刈り

メガソーラーの草刈り



1. 自動運転とは、

RTKによる高精度測量
だから正確に走行

1. 自動運転とは、

ラジコンと違う

1. XAG社の 自動運転とは、

データを記憶して
繰り返し使える

**1. XAG社の
自動運転とは、**

散布情報も記録される

2. ローカル戦略

出来ることを増やす

機器の販売だけでなく
請負散布も

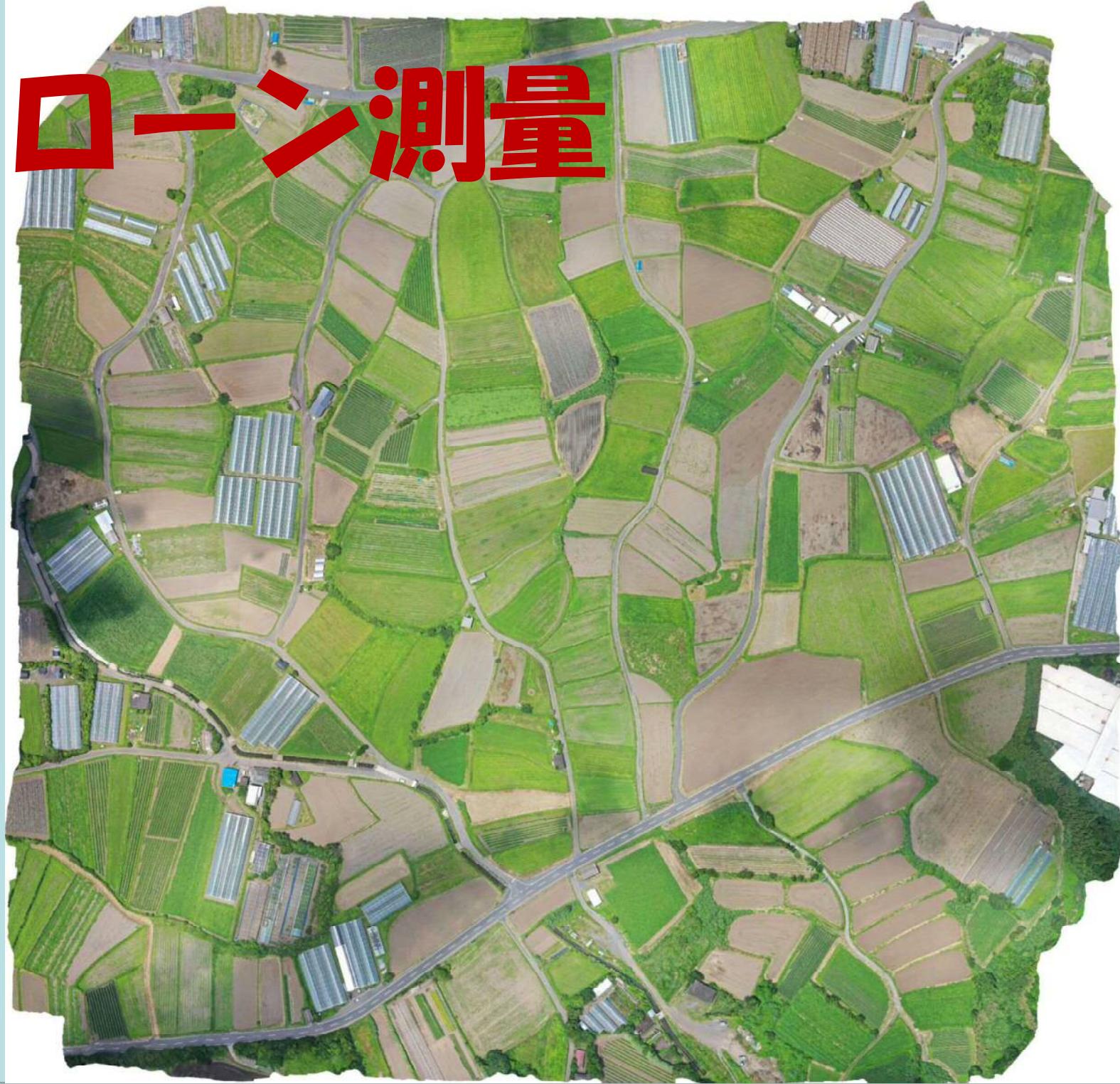
2. ローカル戦略

他社にないものを！
農機のカスタマイズ

2. ローカル戦略

ドローン測量で農地管理

ドローン測量



2. ローカル戦略

WEBカメラによる
防犯と鳥獣害対策

2000年から

http://kagoshima-
live.com/index.htm]

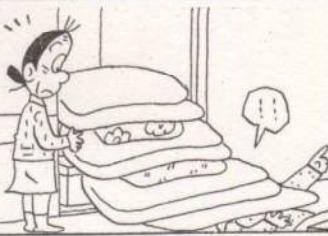
検索→今日の桜島

2. ローカル戦略

メガソーラーの草刈り



これまで



ファクス、パソコン使い 自宅でパートでできます

鹿児島市

だった。

キーをたたいて入力する

だけの簡単な作業のため、

使用する機器は最新型でな

くても十分。中古のファク

スとパソコン合わせて一セ

ソコンに登録されている会

社の書式に合わせて数字な

どを入力。出来上がった文

書は、パソコン通信を使っ

がなかつた悩みも解消され

ツ二十万円程度と費用も

割安。さらに事務所が狭く、

パートの机を置くスペース

がなかつた悩みも解消され

たときに「なせるのでうれ

しい」という。

川崎さんは「機器の簡単

新しい試みに期待してい

る。

参加にも役立てたい」と、

い

家に居ながら仕事ができ
ます。鹿児島市の住宅リ
フォーム会社が、パートの
主婦にファクスとパソコン
を貸与、自宅で見積書など
の入力作業をする新しい内
職を取り入れている。でき
あがつた文書は電話回線で
送信し、出勤しなくても家
事の合間に仕事ができる仕
組み。将来は在宅の身障者
らを募り、パートとして働
いてもらいたい、といふ。

「ペインター川崎」(宇
宿二丁目)の社長川崎恭賀
さん(38)が発案し、昨年十
二月から始めた。

仕組みはいたって簡単。
会社から送られてきた手書
きの見積書などをラクス
で受け取り、あらかじめパ
ン屋さん

「身障者の社会 参加に」と導入

て会社に送り返す、といふ
システムになっている。
県青少年団体連絡協議会
の会長を務めたことがある
川崎さんが外出の難しい身
障者と交流する中で、「働
いて、社会参加したい」と
の声を聞いたのがきっかけ
だ。



「通勤時間もかからず、時間が有効に使える」と喜ぶ太崎さん

1996年(平成8年)4月11日 木曜日

会

パソコンで 在宅勤務

障害者の社会参加へ新事業



中古機器提供呼びかけ

パソコン入力作業に取り組むメンバー

II鹿児島市吉野町のワークプラザ麦の芽

「データを送信できるように

する計画」という。

既に、企業からデータ

入力の注文も舞い込み始

めおり、指導員の中川

正也さんは「メンバーは

ワープロを使った出版事

業なども手掛けているた

め、パソコンも十分こな

せる。機器さえあれば、

十分。いらなくなつた機

器を提供してほしい」と

呼び掛けている。問い合わせは、ワークプラザ麦

の芽 II 099(244)8946。

鹿児島市吉野町の身障者通所授産施設・ワークプラザ麦の芽が、企業の営業資料などのパソコン入力を肩代わりする新事業に取り組んでいる。博来は、

データがやり取りができるよう機器開発士を電話回線で接続、施設や自宅に居ながら仕事ができるシステムをつくり、障害者の社会参加に役立てるもよだ。

ワークプラザ麦の芽

パソコン通信に興味の
あるメンバーやから「仕事
に生かせないか」との声
ワークプラザ麦のパソコンで

いた。当面は、ワークプラ
ザ麦の芽のパソコンで
企業に渡す仕組みを取る

データを打ち込み、文書
を記録したフロッピーを
企業に渡す仕組みを取る

が、通所の難しい在宅障
害者にも機器を貸与し、
電話回線を通じて入力デ

ネットでロボ遠隔操作



搭載カメラで送った映像をもとに遠隔操作で動くロボット
(右)=霧島市の鹿児島工業高等専門学校



遠隔操作ロボット実験のモニター画面
=鹿児島市名山町のソフトプラザかごしま

導入実験の協力事業所や情報提供を求めてい

鹿児島→霧島

NPOと鹿高専が共同研究

鹿児島市の特定非営利活動法人(NPO法人)「かごしまライブカメラネットワーク」と霧島市の鹿児島工業高等専門学校が、インターネットによる遠隔操作が可能なカメラ搭載ロボットの共同研究を進めている。要介護者らの見守りや店番などの活用とともに、将来は障害者らの雇用創出につなげたい考え。

要介護者見守り、店番に

インターネットでの
ライブカメラ映像配信
を手がけていた、同法
人の川崎恭資理事長
(52)が、距離や時間、
障害の有無などのハン
ディを超えた仕事を開

発できないか」と発案。
今年1月に同校に協力を依頼した。同校生が数年前に卒業研究で作った自走ロボットをベースに、4月から5年生4人が製作に取りかかった。今月完成した試作ロボットは、高さ40センチ弱。キヤビラの上にアルミ製の棒で骨組みを作り、ノートパソコンと一緒にカメラを搭載した。

実験が26日あり、同校に置いたロボットを鹿児島市名山町のソフト

操作を担当した5年生の吉岡大貴さん(19)

は「予想よりカメラの視野が狭く、操作しづらかった。今回分かった

ほかの課題も含め、改善を重ねれば目標に近づけると思う」と手応えを感じたようだっ

た。同校地域共同テクノセンターの芝浩一郎センターラン(58)は「利

用者の立場で発想した川崎さんのアイデアと高専の技術がうまくマッチした」と喜んだ。

川崎さんは「アイデア次第で活用の場が広がるのではないか」と期待する。

「プラザかごしまから遠

隔操作した。同校では学生や関係者が見守る

中、ロボットがコースを順調に移動。3カ所に置いたぬいぐるみに

カメラを向けたり、障

害物として置いたモッ

ブの柄を乗り越えたり

した。

操作を担当した5年生の吉岡大貴さんは「予想よりカメラの視野が狭く、操作しづらかった。今回分かったほかの課題も含め、改善を重ねれば目標に近づけると思う」と手応えを感じたようだつた。同校地域共同テクノセンターの芝浩一郎センターラン(58)は「利用者の立場で発想した川崎さんのアイデアと高専の技術がうまくマッチした」と喜んだ。川崎さんは「アイデア次第で活用の場が広がるのではないか」と期待する。